課題名：6.(1)沿岸底魚類の資源動向調査
事業名：沿岸漁業重要資源調査
予算額：6,233 千円（単県）
期間　：平成 5 年度～
主担当：増殖技術室（太田武行）
目的　：

県の資源管理対象種となっているヒラメ,メイタガレイ類,マダイ等の当歳魚の出現動向ならびに漁獲動向について調査し,これら魚種の漁況予測技術の確立する.更に,経年的なデータの蓄積により漁況予測技術の精度の向上を目指すとともに,資源の効率的かつ持続的な利用と計画的な操業に資するため、これらの情報を漁業者へ発信した.

成果の要約：

H22 年のヒラメとメイタガレイ類の資源状況は,低位･横ばい,マダイは中位･横ばいと判断された.

ｉ）試験の内容

a)　傭船による沿岸重要資源の分布調査

ヒラメ,メイタガレイ類,マダイを主な調査対象種とし,稚魚の出現動向ならびに漁獲対象魚の分布調査を行った.調査は鳥取県漁業協同組合賀露本所及び泊支所の所属の小型底びき網漁船を傭船し,図 1 に示す定点（水深 5,7.5,10,15,20,30,50,70,80,100,120m）において月 1 回の割合で小型の桁網(ビーム 5m,目合 30 節または 40 節)を曳網することにより行った.また,11 月～3 月には県中部（北栄町沖水深 10m）の海域で桁網(ビーム長 10m,目合 6 節)を曳網し,ヒラメ当歳魚の分布状況の把握を行った.

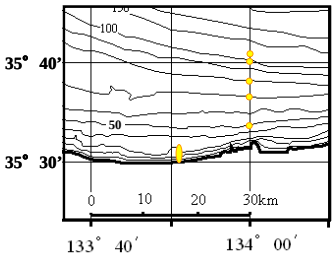

図 1 調査定点

b)　漁獲動向調査

漁獲動向を把握するため,漁獲月報の集計を行い月別,漁協別,漁法別の漁獲量ならびに漁獲金額を整理した.また,市場調査(賀露地方卸売市場及び鳥取県漁業協同組合境港支所で実施)を月 3～4 回の頻度で実施し,漁獲されたヒラメ,マダイ,メイタガレイ等を測定した.

ⅱ）結果の概要：

a)　ヒラメ の H23 漁期予測

漁獲主体である 1,2 歳（H22,H21 年級群）の稚魚の発生状況は近年では良いが, 3,4 歳魚に当たる H19,20 年の稚魚の発生状況が悪いため,全体的に小型魚が多く,漁獲量は減少すると見込まれた（図 2）.

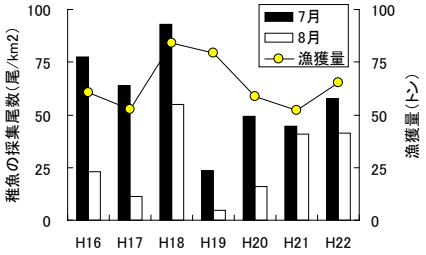

図 2 ヒラメの 7,8 月の稚魚分布密度と漁獲量の推移

b)　ナガレメイタガレイ（地方名バケメイタガレイ）の H23 漁期予測

漁獲主体である 1 歳魚に当たる H22 年の稚魚の発生状況は,H20,21 年級群に比べ,良いことから,漁獲量は若干増加する見込み.ただし,資源状況は引き続き低位のため 50 トン程度になると見込まれた(図 3）.

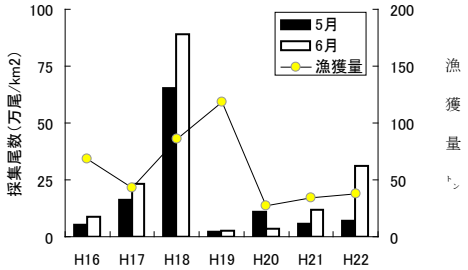

図 3　ナガレメイタガレイの 5,6 月の稚魚分布密度と漁獲量の推移

c)　マダイの H23 漁期予測

稚魚の発生状況の良い 1～3 歳（20～22 年級群）が加入するため,漁獲量は増加するが,小型魚中心の漁獲組成となると予測された.

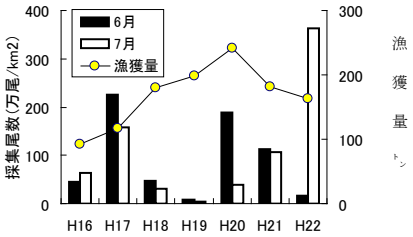

図 4　マダイの 6,7 月の稚魚分布密度と漁獲量の推移

成果の活用：

小底部会,資源管理実践協議会等で調査結果を漁業者へ報告した.マダイ,ヒラメの市場調査,標本船調査の結果をもとに,本県における年齢別漁獲尾数を推定し,（独）水産総合研究センター西海区水産研究所に提出し,マダイ,ヒラメの資源評価調査の基礎データに資した.

関連資料・報告書：

本年報に「付表,鳥取県海洋環境･水産資源レポート」の抜粋を掲載.